

『原三溪翁伝』第2篇第7章を読み進めました

12月の定例研究会は『原三溪翁伝』輪読を進めました。

◆例会（14:00～）

- ・会員の別府敏さんから、日本新聞博物館で開催された展覧会「かながわの記憶 報道写真でたどる戦後史」で三溪園の写真が紹介されているとの報告がありました。
- ・内海孝先生からご挨拶をいただきました。

◆輪読

発表者：久保いくこ

範囲：第2篇第7章「日本美術の振興」（pp. 457～482）

発表のなかで、原三溪の母方の祖父である高橋杏村の略歴や、三溪所蔵の《孔雀明王像》を譲り受けたいと交渉してきたアメリカ人・チャールズ・ラング・フリーアについて調べたことなどが紹介されました。

質疑応答では、会員から、従来「鉄道王」と言われてきたフリーアが自動車会社を設立していたことや、『野村洋三傳』にフリーアの鉄道買収計画が紹介されていることが指摘されました。また、三溪が作品を収蔵した現代画家のひとりである西郷孤月は、原家の親戚にあたることが紹介されました。それから、野村洋三の妻・美智子がアメリカでフリーアの所蔵美術品を見た話に関連して、神奈川新聞社から野村みち著『ある明治女性の世界一周日記—日本初の海外団体旅行』（2009年10月）という本が出版されているという指摘もありました。

◆話し合い（15:20～）

主に来年度の活動について全体で話し合いました。

- ・会報の発行 … 創刊号の印刷ができましたので、各地へ配布する予定です。
- ・今年度2月のタゴール・イベントについて
- ・今年度の活動報告書の作成準備について
- ・来年度の事業計画案、予算作成、4月以降の会場確保、輪読会の進め方について
- ・会員の尾関孝彦さんから、岐阜における原三溪関連の動きについて報告がありました。

次回の輪読は第3篇に入ります。